

腸管出血性大腸菌感染症の届出増加について

4 月以降、腸管出血性大腸菌（EHEC）感染症の届出が計 15 例確認されており、特に 9 月に入り 10 歳未満の幼児・小学生の届出が多くなっています。疫学調査の結果、一部で接触者への二次感染は見られますが、現在のところ感染源の特定には至っていません。

医療機関から提供いただいた菌株を用いて、腸管出血性大腸菌の分離・同定、血清型、VT 型の同定を行うと同時に、反復配列多型解析（MLVA）法による分子疫学的解析を行っています。MLVA 法により、事例間の関連性や広域性の有無を確認し、発生動向の把握や食中毒事例の分析に役立てています。

「腹痛」や「水様性下痢」等の消化器症状を呈する患者が受診された際は、食肉等の喫食の有無にかかわらず、積極的な検便検査の実施をご検討ください。

【2026 年 8 月、9 月の届出症例】

	年代	性別	病原体	毒素	無症状	症状				
						腹痛	水様性下痢	血便	嘔吐	発熱
8 月	20 代	男	O157	VT2						
9 月	高校生	男	O157	VT1VT2			○			
	50 代	女	O8	VT2	○※					
	幼児	女	O157	VT1VT2		○	○	○		
	小学生	女	O157	VT1VT2	○					
	幼児	男	O157	VT1VT2			○	○		○
	小学生	男	O157	VT1VT2		○				○
	小学生	男	O157	VT1VT2		○	○	○		
	50 代	男	O157	VT2	○※					

※食品取扱者の定期検便にて探知

四類感染症（エムボックス）患者の発生について

市内の医療機関を受診した患者について、和歌山市衛生研究所でウイルス検査を実施した結果、9 月 9 日にエムボックス(ウイルス型：クレード I b)と判明しました。本市での確認は初めてとなります。国内では 2022 年 7 月以降、患者の発生が続いており、392 例の症例が確認されています。(9/11 時点)

【症例】患者：40 代 男性
症状：水疱（はじめに手に出現、その後全身に拡大）、発熱、肛門直腸痛、倦怠感

当市では、衛生研究所での速やかな PCR 検査※による確定診断（ウイルス検査）が可能な体制を整えております。つきましては、エムボックスを疑う臨床的特徴を有する患者を診察された際は、速やかに和歌山市保健所（電話番号 488-5109）へご相談くださいますようお願いいたします。

（※検査材料：水疱拭い液(ウイルス輸送用培地)）

【参考】「エムボックス 診療の手引き 第 4.0 版」（和歌山市感染症情報センター「医療機関の方へ」に掲載）